

## 研究主題

# 自立と社会参加を目指す「子ども主体」の授業づくり（三年次）

～一人一人の育成を目指す資質・能力を踏まえて～

### 1 研究の概要と主題について

本校の教育目標は「自分から自分でする人間を育てる」である。自分から自分でする人間とは、自分の力を発揮して「主体的に」「自立的に」学校生活に取り組む児童生徒である。

自分から自分で取り組んだり、自分の力を発揮したりするためには、児童生徒一人一人がそれぞれに必要なとしている最適な支援が必要である。

そこで本校では、長年に渡って「できる状況づくり」の考え方を大切に「子ども主体」の授業づくりや学校生活づくりに取り組んできた。前研究「一人一人が持てる力を発揮するための支援の在り方を探る」では、「持てる力」をキーワードに一人一人の状況や力の把握を丁寧に行い、「持てる力」を發揮できるための支援や評価の方法について探ってきた。一人一人が「持てる力」を發揮し、また、その力を高めていくためには「できる状況づくり」が不可欠であることが改めて確認できた。前研究で取り組んだ児童生徒の状況把握の内容については、個別の指導計画（1年間の支援方針）に取り入れている。

教育目標に迫るためにも、引き続き「できる状況づくり」を大切に、児童生徒がより自分の力を發揮し、主体的に自立的に活動に取り組む姿を追究していきたいと考えた。

平成29年4月に公示された新学習指導要領では、すべての学校種において「社会に開かれた教育課程の実現」の理念が示された。社会に開かれた教育課程に向けては、社会との連携によって子ども達に資質・能力を育成していくことが求められている。

本研究は、「社会に開かれた教育課程」「育成を目指す資質・能力」をキーワードに、自立と社会参加に向けて、これまで以上に授業の質を高めていくための取り組みである。「できる状況づくり」を基本とした「子ども主体」の授業づくりを深め、新学習指導要領の方向性を踏まえながら授業改善を図ることで、本校の授業をさらにブラッシュアップしていきたいと考えた。

### 2 社会に開かれた教育課程について

研究のキーワード「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた授業づくりについて、本校では2つの視点で考える。1つ目は、これまで以上に丁寧に授業づくりを行うということである。本校はこれまでも社会の中で積極的に授業を展開してきたが、そのことで児童生徒一人一人に必要な資質・能力を育成できているのか、一人一人が力を發揮できる活動になっているのかなどについて見直し、活動内容や支援の改善を図っていく必要があると考えた。

2つ目は、地域や社会（家庭）の人々と共に子どもを育てるという視点に立ち、授業をとおしてより良い社会を作るという方向性を持って、授業を充実させていくことである。そのためには、これまで以上に授業のテーマを実生活や地域社会に求めたり、地域や社会と連携・協働したりする中で、子ども達が主体的に自立的に、自分の力を發揮していく授業を展開していく必要があると考えた。

### 3 育成を目指す資質・能力について

新学習指導要領では、どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながらか教育活動の充実を図ること、また、学習評価の充実によって指導の改善や学習意欲の向上を図り資質・能力の育成に生かすようにすることが示された。

学校の教育目標「自分から自分でする人間」を実現するために、各教科等を合わせた指導を教育課程の中心に位置づけている本校においても、各単元において主体的、自立的に活動することで児童生徒一人一人に、「何ができるようになるのか」育成を目指す資質・能力を明確にすること、また、「何ができるようになったのか」児童生徒の育ちを丁寧に評価していくことが求められている。

つまり、育成を目指す資質・能力を踏まえた授業は、より細やかに児童生徒の育ちを考えて授業づくりをすることであり、そのことにより、児童生徒一人一人へより細やかな支援を考えること、児童生徒一人一人がさらに精一杯力を発揮しながら活動に取り組む姿を実現できるのではないかと考える。

### 4 研究のねらい

実際の生活に、自分の力を「精一杯」発揮し、やりがいと手応えを感じながら主体的、自立的に活動に取り組む子どもの姿を実現する。また、授業実践を通して社会に開かれた授業のあり方を探る。

- \* 精一杯とは・・・簡単にできるあるいはさして努力せずともできることではなく、その子なり、その活動なりに持っている力の全てもしくは、できる限りを出すこと。「精一杯」発揮することで、「できた。」「うまくいった。」「またやりたい。」などのやりがいや手応えを感じることにつながり、それが、次の主体的で自立的な姿につながっていくと捉えている。

### 5 研究2年次の取組

(1) 視点に沿った授業づくり (各学部共通)

- ① 単元全体に関わる視点として、地域や社会の人的物的資源の活用、地域や社会との連携・協働によるテーマの設定や単元計画を工夫した。
- ② 児童生徒に関わる視点として、一人一人が「精一杯」力を発揮するための活動内容や支援を検討した。また、一人一人の単元で育成を目指す資質・能力を明示し、評価する取り組みを行った。

(2) 研修会

- ① 全職員で、共同研究者より「学習評価から考える授業づくり」、「主体的、対話的で深い学びと知的障がい教育の授業づくり」について指導をいただいた。
- ② 学部に応じて、授業実践における「育成を目指す資質・能力」の考え方や「育成を目指す資質・能力」の授業案への表記の仕方などについての研修会を行った。

## 6 2年次の取り組みの成果と課題

成果	課題
<p>○各学部に応じて社会に開かれた授業づくりを深化させることができた。小学部では、身近な地域との「共同」的活動、中学部では、地域の施設や地域の方々との「連携」、地域に「貢献」する活動、高等部は、地域資源の「活用」、地域への「発信」、地域との「協働」的な活動の深まりがあった。</p> <p>○児童生徒一人一人の「精一杯」活動する姿の実現のため各学部工夫を凝らした話し合いの場が設けられた。</p> <p>○個別に「テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力」を明示し、評価したことで育ててほしい具体的な姿を考えながら支援できた。また、評価の取り組みをとおして、活動内容や手立ての見直し、改善につながった。</p>	<p>●社会に開かれた授業の更なる深化、社会に開かれた授業展開の中で、児童生徒が「やりがいや手応え」を十分に味わったり、「自立的」「主体的」に活動したりできるように単元計画や個別の手立てをさらに工夫していくこと。</p> <p>●児童生徒一人一人の育成を目指す資質・能力を考えていくことや評価の妥当性を高めて、評価を授業づくりに生かしていく方法を検討すること。</p> <p>●授業研究会後のミーティングの方法や単元の反省を踏まえた授業づくりの方法について検討すること。</p>

## 7 共同研究者からの学び

※共同研究者：名古屋恒彦先生（植草学園大学 教授）

- ・育成を目指す資質・能力を育成する授業＝観点別評価の取り組みである。
- ・「各教科等を合わせた指導」本来の生活に即した評価を前提とする。



## 8 研究3年次の方向性（4，5より）

- (1) 2年間、各学部で積み上げてきた地域や社会資源の活用や地域や社会との連携・協働による「社会に開かれた授業」をさらに深化（発展的に授業づくりに生かす）させ、学部ごとに社会に開かれた授業を展開する。
- (2) 「期待する姿」と「育成を目指す資質・能力」「観点別による評価」の本校としての考え方を全職員で改めて共通理解し、授業づくりに取り入れていく。特に評価を授業づくりに生かすことで、授業改善につなげていく。
- (3) 授業研究会や、単元の反省を生かして授業改善につなげていく。

## 9 研究の方法（3年次の取組）

- ・社会に開かれた教育課程の実現に向けて、できる状況づくりを基本とした子ども主体の授業づくりを行う。

- (1) 最終年次の研究として以下の2つの視点による授業づくりを行う。具体的には、各学部の実情やこれまでの研究の積み上げ等を踏まえ、学部ごとに取組や取り組む領域教科、指導の形態を定めて実践しまとめる。

### <単元全体について>

- ① 地域や社会の資源の活用や地域や社会との連携・協働による単元計画を工夫する。
  - ・昨年度までの取り組みを踏まえたり、発展的に生かしたりして深めていく。
  - ・子ども達のやりがいや手応えにつながるように一層の工夫を図る。

### <児童生徒一人一人について>

- ② 精一杯力を発揮するための活動内容と支援、「テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力」について検討する。
- ③ 「テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力」を踏まえた評価を、一人一人の活動内容の質の向上や支援の改善につなげる。

- \*②、③の考え方については、全職員で共通理解を図る。
- ・テーマ実現の中で育成を目指す資質・能力を学習の記録や評価に取り入れていく。

- (2) 資料作成の手引きの作成と活用

- ・今年度の研究の取組に沿った授業案の形式を作成する。指導形態によって書きやすくなるような授業案の形式について検討する。
- ・評価の様式等については教務部と連携しながら進める。

- (3) 授業研究会の実施

- ・各学部2回以上の授業研究会の実施
- ・公開研究発表会による校内研究の発信

- (4) 研究のまとめと評価

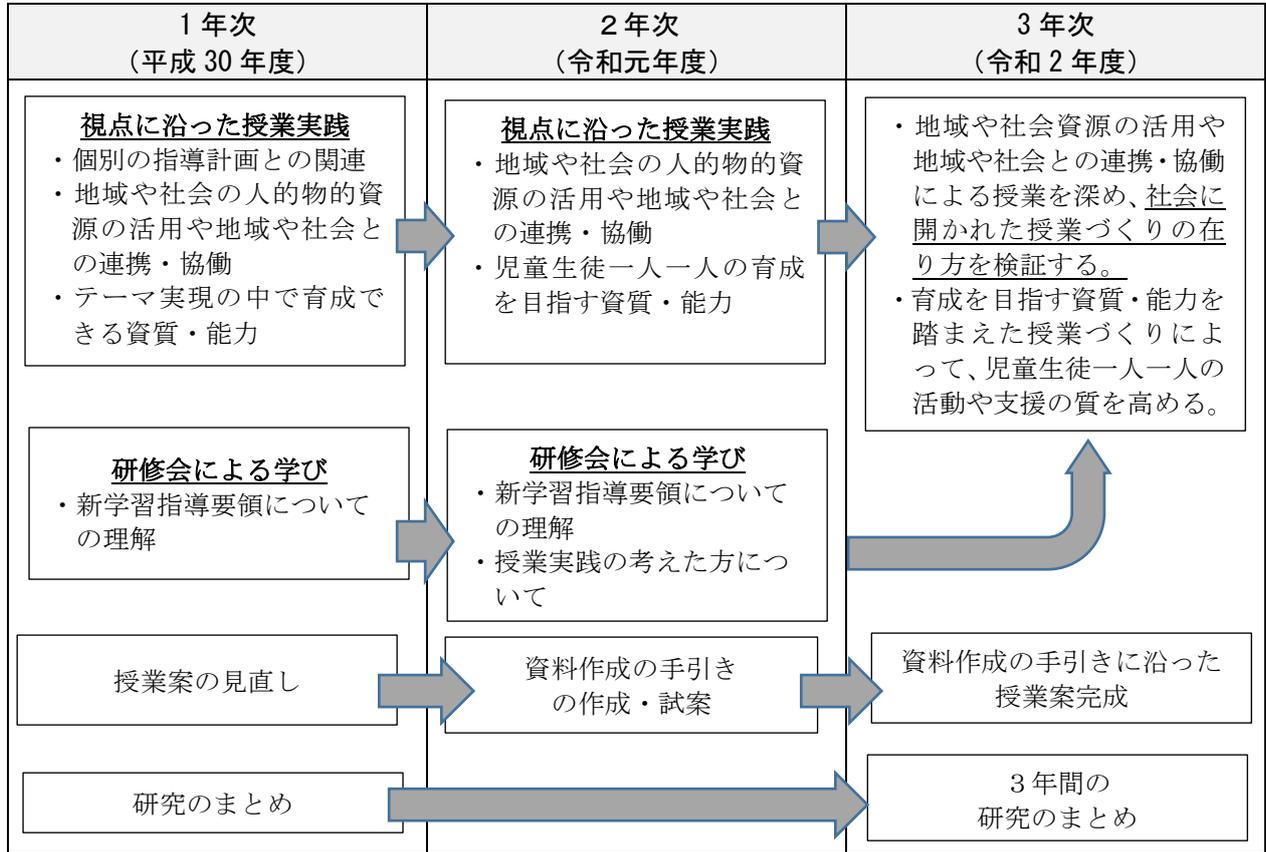
- ・授業づくりの評価、児童生徒の変容の評価
  - …研究の視点を踏まえた授業づくりの方法や在り方、児童生徒にどのような変容が見られたのかについて学部ごとにまとめる。
- ・研究紀要の作成
  - …今年度の研究と3年間の取り組みをまとめる。

(5) その他

- ・授業研究会や、単元の反省を生かして授業改善につなげていくための方策について、各学部で探っていく。
- ・各学部の授業づくりや研究実践の課題解決に向け、必要に応じて研修等を設定する。

## 10 研究計画

(1) 年次計画 研究は3年次計画とする。

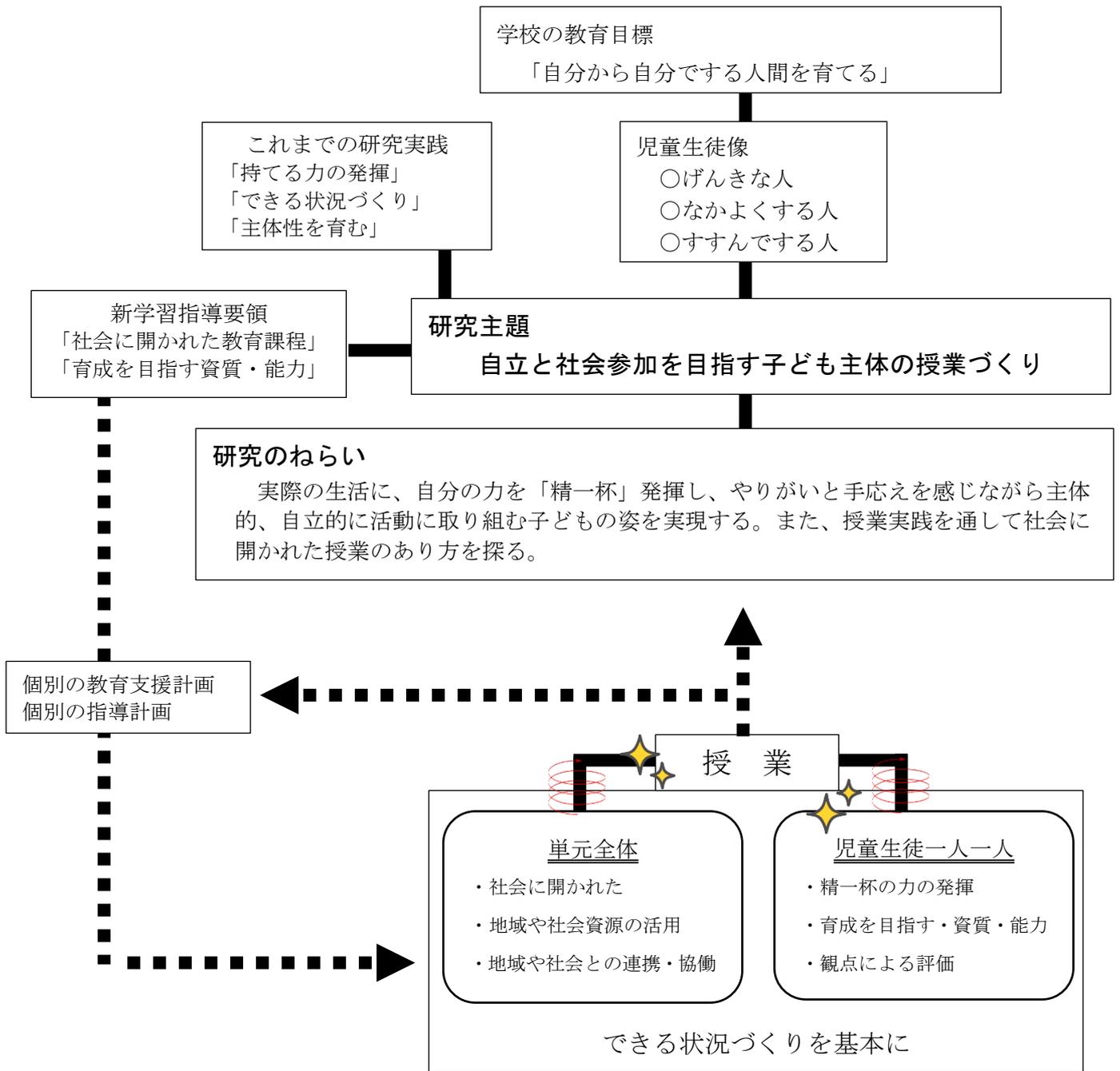


(2) 今年度の研究協議等の日程

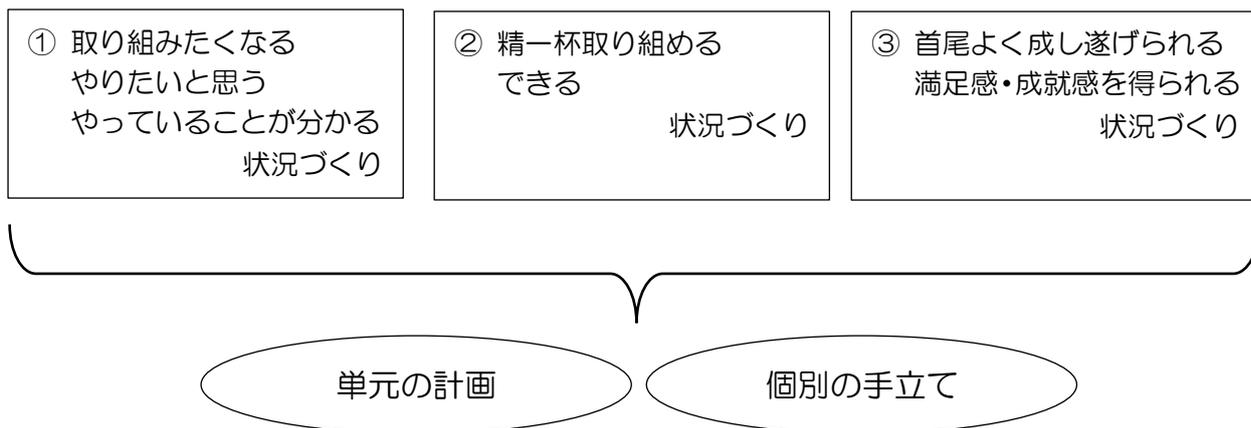
期 日	会 議 名	主 な 内 容
5/11 (火)	研究全体会①	研究概要の提案
5/19 (火)	研究学部会	各学部の取組の検討
6/ 1 (月)	研究全体会②	各学部の取組の提案
7/15 (水)	中学部授業研究会	生活単元学習の授業研究会、事後研究会
8/26 (水)	研究全体会③	1学期の取組のまとめ、授業研について
10/ 9 (水)	校内授業研究会 I	中学部の研究授業、事後研究会
10/30 (水)	校内授業研究会 II	小学部・高等部の研究授業、分科会
1/16 (木)	研究全体会④	研究のまとめ、新研究の立ち上げに向けて
2/18 (水)	研究全体会⑤	新研究の立ち上げについて

\*その他、学部ごとに研究学部会や研修会を設定する。

# 11 学校の教育目標と研究の関連図



◆ 「子ども主体」の授業のための「できる状況づくり」のポイント



〈単元の計画の4観点〉

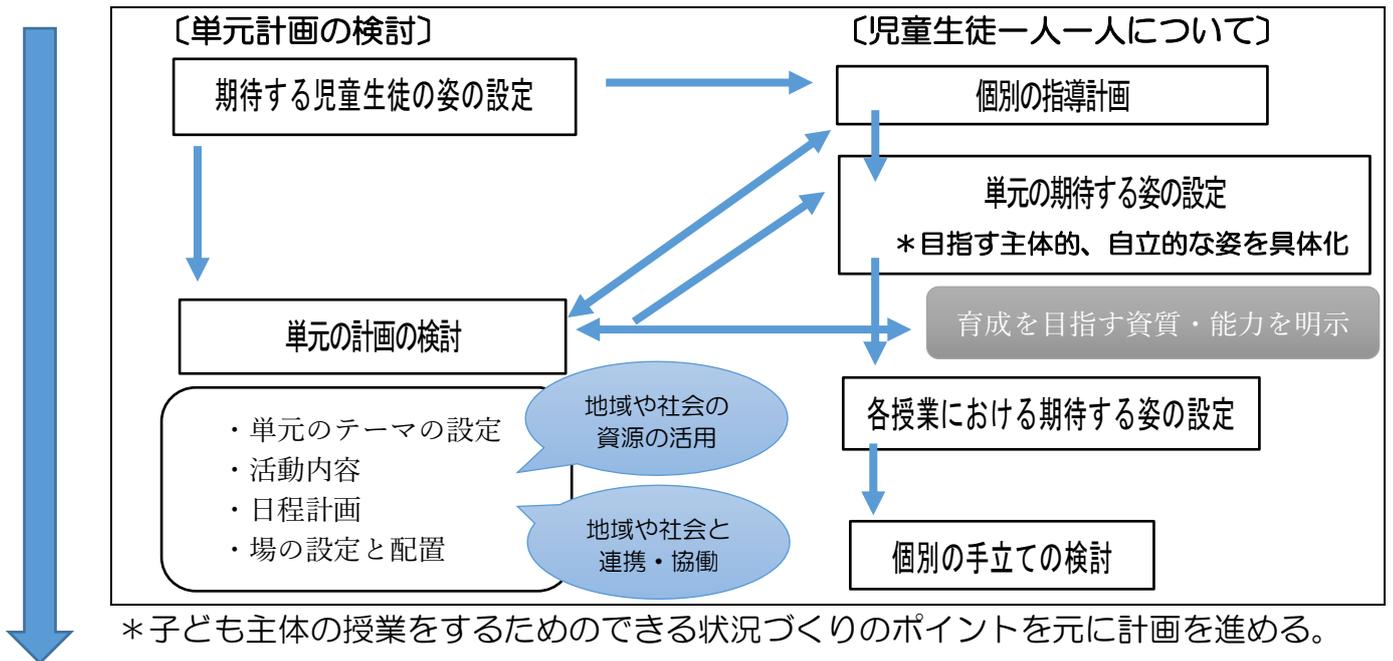
観点	工夫の視点
<b>テーマの設定</b> 一定期間活動する上での 目標や課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会を意識したテーマ（年間指導計画作成時に検討する）</li> <li>・児童生徒の思いや願い、興味関心を取り入れたテーマ</li> <li>・意識しやすく、どの子も共有できるようなテーマ</li> <li>・生活年齢にふさわしく発展性があるようなテーマ</li> </ul>
<b>活動内容</b> 単元の構成、活動グルー プ、授業内容など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会と関わることができるような活動内容</li> <li>・必要感を持ち、やってみたいと思えるような活動内容</li> <li>・テーマに沿って、繰り返しできるような活動内容</li> <li>・一人一人が「持てる力」を発揮できるような活動内容</li> <li>・自分で考えたり、判断したりできるような活動内容</li> <li>・人と関わり、協働して取り組めるような活動内容</li> <li>・結果が分かりやすく「できた」「またやりたい」思えるような活動内容</li> <li>・仲間と共に、楽しさや喜びを分かち合えるような活動内容</li> </ul>
<b>日程計画</b> 単元における日程計画全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会と関わることができるような日程計画</li> <li>・中心的な活動を繰り返すことができるような日程計画</li> <li>・単元のテーマへの意欲が持続するような日程計画</li> </ul>
<b>場の配置と設定</b> 活動場所の設定 道具や補助具、遊具の位置 児童生徒・教師の配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や社会とつながりやすい活動場所の設定や選択</li> <li>・やりたい、挑戦してみたいと思える遊具</li> <li>・活動しやすい場の配置、環境の設定</li> </ul>

〈個別の手立ての6観点〉

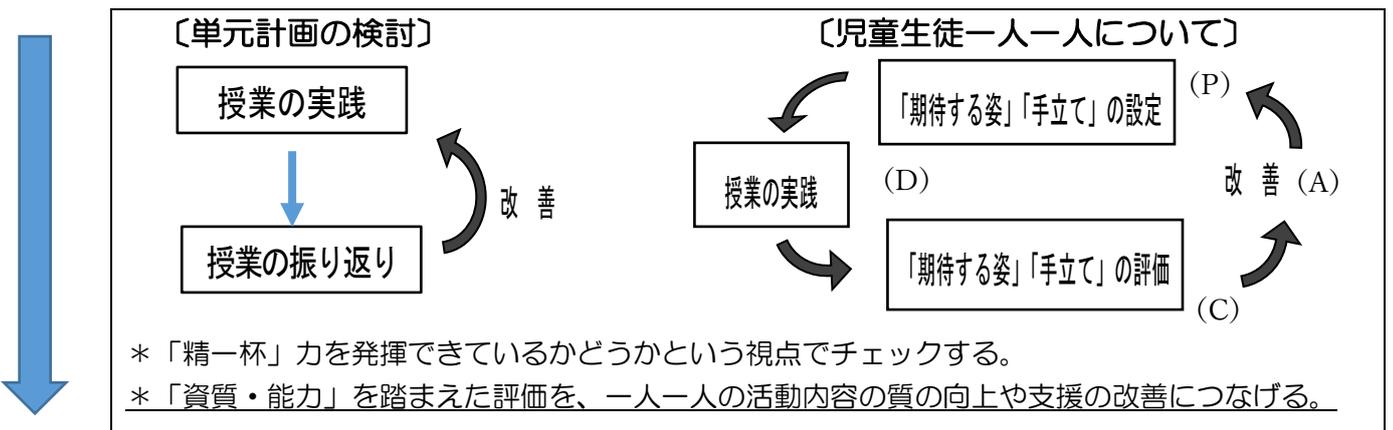
観点	内容
見通しやめあて	・児童生徒がその日の活動や単元の活動に見通しや、目標を持って取り組めるようにすること。
場の配置	・児童生徒が活動しやすく、意欲的に取り組めるように、活動の場や環境を整えること。
教材や用具	・児童生徒が使用する教材（学習プリントや材料など教材全般）や用具（道具や補助具、遊具）を準備、設置したり、使いやすくしたりすること。
工程や手順	・児童生徒が取り組む活動の工程や手順に関すること。
友達や教師との関わり	・児童生徒が活動している際の、教師の直接的な声掛けや援助、共に活動する、見守る等の支援に関すること。また、一緒に活動する友達同士の関わりに関すること。
活動の選択	・児童生徒が活動を選択したり、決定したりできるようにすること。

◆令和2年度版 授業づくりのプロセス（ベース）

単元の計画（Plan）



単元の展開（Do）



単元の評価とつながり（Check）

- ◆単元のまとめ
  - ・主体的、自立的な姿が見られる「単元計画上の工夫」（活動内容、日程計画、場の設定と配置等）ができたか検討しまとめる。
  - ・地域や社会の資源の活用、地域や社会との連携・協働による単元計画についてまとめる。
- ◆児童生徒のまとめ
  - ・単元期間中の児童生徒の様子や変容、有効だった支援についてまとめる。
  - ・単元で精一杯発揮できた力や資質・能力について今後どのようにしていくかまとめる。
- ◆教師の取り組みのまとめ
  - ・各学部での取り組みについてまとめる。
  - ・授業づくりのプロセスについて、各学部版としてまとめる。

次の単元などへのつながり（Action）

- ◆まとめたものを次の単元計画、児童生徒の支援に生かす。
- ◆「個別の指導計画」へのフィードバックを行う。

<資料>

■「できる状況づくり」とは…

児童生徒が力を尽くして精一杯活動できる状況、力を尽くすことで首尾よく\*成し遂げる  
ことのできる状況をつくること。

児童生徒が、さして努力せずともやれるようにすることではない。その児童生徒なりに力  
を尽くして精一杯やる姿が見られるようにすることである。力を尽くして取り組み、首尾よ  
く\*成し遂げた満足感や成就感の積み重ねが、児童生徒の意欲、自己肯定感を高め、主体的  
な姿につながるものとする。

\*首尾よく…うまい具合に

■「期待する児童生徒の姿」とは…

児童生徒が「自分から」「自分で」主体的に活動する具体的な活動の様子を示すもの。  
主体的な姿とは、児童生徒自身が学校生活を過ごす主体者として、次のような姿でそれぞ  
れの授業や学校生活に参加する姿である。

- ・自分で判断し行動してそれぞれの活動に向かう姿
- ・自分の気持ちややりたいことを表現し、活動する姿
- ・自分で活動を選び、進んで活動する姿
- ・取り組んでいることに精一杯力を出して活動している姿
- ・活動に楽しみや喜びを持って、意欲的に活動している姿
- ・自分の役割やめあてが分かり、それに向かって力を発揮して活動する姿

一人一人の期待する姿については、「めあて」として実現できそうなことを具体的に設定し  
ていく。その際、教師側の一方的なねらいとしてではなく、児童生徒自身の願いやこれまで  
の様子、保護者の願いなどを考慮して設定するよう留意する。

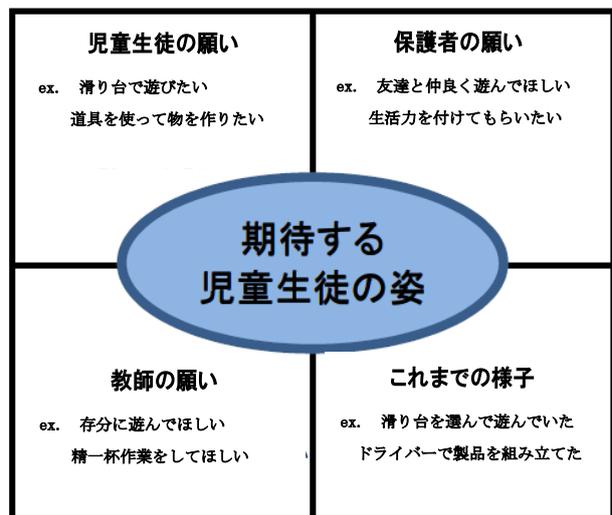


図1 「期待する児童生徒の姿」イメージ

■「社会に開かれた教育課程（の実現）」とは…

よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それ  
ぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付け  
られるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりそ  
の実現を図っていくということ。（学習指導要領前文より）

<参考文献>

1. 山形県立米沢養護学校 (2020) 『研究紀要43集』
2. 山形県立米沢養護学校 (2018) 『研究紀要41集』
3. 山形県立米沢養護学校 (2013) 『研究紀要36集』
4. 文部科学省 (2017) 『特別支援学校 幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領』
5. 岩手大学附属特別支援学校 (2017) 『I F T 2 4 研究紀要』
6. 名古屋恒彦 (2018) 『アップデート！各教科等を合わせた指導』 東洋館出版社